令和6年度第3回東久留米市社会福祉審議会及び令和6年度第3回包含計画検討部会
会議録

日時：令和6年7月31日（水）
午後7時00分～9時00分
場所：701会議室（市役所7階）

【事前配付資料】

資料1 東久留米市地域福祉計画（第4次改定）骨子案

1 開会

事務局：

本日はお忙しい中、また、悪天候の中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今より、「令和6年度第3回東久留米市社会福祉審議会及び包含計画検討部会」を開催いたします。

本日の会議の開催につきましては、東久留米市社会福祉審議会条例第6条の規定により、審議会委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができないとなっております。〇〇委員が来られていませんが、半数以上に達しておりますので会議が成立しておりますことをご報告いたします。

今後のスケジュールについて、ここでざっとご説明いたします。今回を含めまして残り4回になります。今日は骨子案を検討していただきますが、この次は10月を予定しており、そこでは素案について、さらに11月にもう一回素案という形で、素案を2回検討いたします。そのあと、12月にパブリックコメントを開きまして市民の方から意見を募り、1月に案として完成という形となります。よろしくお願いいたします。

議題に入ります前に、会議の傍聴についてでございます。令和5年度の第1回審議会でご確認いただきましたとおり、傍聴希望がございましたら許可することとさせていただいておりますので、ご承知おきのほどよろしくお願いいたします。

（傍聴：1人）

配付資料の確認

事務局：

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。本日、机上に配付しております資料につきまして、確認をお願いいたします。まず、資料1「東久留米市地域福祉計画（第4次改定）（東久留米市成年後見制度利用促進基本計画、東久留米市再犯防止推進計画）（骨子案）」と書かれた資料が1部。今回の次第が1部。以上でございます。お手元でございます

でしょうか。

ここからは議事進行を会長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

会長：

改めまして、皆様、こんばんは。先ほど、ちょうど私が大学を出る時は土砂降りで、水たまりの中を歩き続けて、足の中がぐちょぐちょです。皆さんは大丈夫ですか。市内も冠水があったと聞いています。すぐやむのでしょうけれども、今、極端ですよね。山形や東北、秋田も、今、水害が起こっており、気を付けないといけないところですが、本日もよろしくお願いいたします。

皆様方のお力を頂きまして、骨子案のところまでたどり着きました。皆様方のお手元にございますとおり、非常にボリュームもたくさんあります。前半は説明が長くなってしまいますので、事務局には、なるべくゆっくり説明していただければと思います。

また、社会福祉協議会のほうでも、この地域福祉計画の両輪と呼ばれる地域福祉活動計画の策定も始まりました。私もお邪魔させていただいているのですが、始まりましたので、またそういった具体的なところのお話も今日も入ってくるかと思っておりますので、また皆様方から忌憚なくご意見を頂ければということで、よろしくお願いいたします。

それでは、今日とはとにかく説明いただいたあとに皆様からご意見を頂くということになっていますので、よろしくお願いいたします。

2 東久留米市地域福祉計画（第4次改定）の骨子案について

会長：

次第1です。「東久留米市地域福祉計画（第4次改定）の骨子案について」ということで、事務局からよろしくお願いいたします。

事務局：

それでは、地域福祉計画（第4次改定）の骨子案についてご説明させていただきます。お配りの資料1「東久留米市地域福祉計画（第4次改定）〔東久留米市成年後見制度利用促進基本計画、東久留米市再犯防止推進計画〕（骨子案）」をご覧ください。

委員の皆様には、一部印刷ミスや修正等があり、差し替えのお願いを二度メールさせていただきました。本日、机上配付しております資料につきましては、修正をしたものでございます。申し訳ございませんでした。

それでは、目次をご覧ください。前回の審議会では、第1章「地域福祉計画の改定にあたって」、第2章「地域福祉を取り巻く現状と課題」、第3章「計画の基本的な考え方」の「1 基本理念」の部分についてご説明をさせていただきました。本日は、第1章及び第2章、第3章の「基本理念」につきましては、修正があった部分についてのみご説明をさせていただきます、第3章の「2 基本目標」以降の内容を中心にお話しさせていただきますので、よろし

くお願いいたします。

まず、3ページをご覧ください。ここでは地域福祉のコラムを掲載してございますが、前回の審議会の中で、自助・共助・公助に互助を加えるかどうかについてのご意見が多くございました。改めて事務局で検討し、現行計画では互助を含めた4つに分類していることから、次回皆様にお示しいたします素案におきましては、互助を含めたものに変更したいと考えております。なお、現行計画における互助の考え方につきましては、市民同士、地域社会相互の助け合い・支え合うこと、共助につきましては、介護保険制度や医療保険制度等の社会保険制度を意味してございます。

続きまして、5ページをご覧ください。ここでは、地域福祉に関する国の動向を記載してございますが、「令和5年度」の3番目の「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」につきまして、施行年月を令和6年4月から令和6年1月に、また、「令和6年度」の2番目の「孤独・孤立対策推進法」につきまして、施行年月を令和6年4月から令和6年5月に修正いたしました。第1章の修正は以上でございます。

続きまして、16ページをご覧ください。「(1)人口の変化」についてでございますが、3段落目に「本市の外国人住民の平成30年から令和6年にかけての増加率は、東京都全体や都の市部平均に比べて高い伸びとなっています」との文章を追記いたしました。

続きまして、20ページをご覧ください。「(2)相談窓口」についてでございますが、上段の文章について、前回の審議会では、内容を一部アスタリスクにし、記載していない部分がございますが、お示しのとおり、市役所や社会福祉協議会が市民からの困りごとの相談窓口になっていること、所管部署だけでは対応できない事案については、関係部署と柔軟に連携していること、また、市内の社会福祉法人や福祉サービス事業所等が市民から受けた相談についても、必要に応じて市や社会福祉協議会が連携して対応にあたる旨を記載してございます。また、中段の表につきましても、内容に変更はございませんが、表記方法を4列から2列に変更してございます。

続きまして、21ページをご覧ください。ここからは「3 地域福祉のテーマ」についてでございます。前回の審議会では、「地域福祉のテーマ(主な課題)」と記載しておりましたが、後ろの「主な課題」という文言を削除しております。また、「予想される社会の動き」につきまして、6月19日に行われました審議会の中で、今後、認知症高齢者の増加は大事な視点となってくるとのご意見が出たため、本ページの「ア」及び「エ」にその内容を追記してございます。

22ページから33ページにかけましては、地域福祉に関するテーマを大きく4つ設定し、市民意識調査や審議会等の意見を踏まえ、テーマごとに地域福祉のキーワードを設定し、記載してございます。内容の変更は特段ございませんが、「地域福祉のキーワード」という文言につきまして、前回の審議会で使用した「これからの課題」という表記から変更してございます。ただ、キーワードと表現するには文章がやや長いということもございますので、キーセンテンスやキーポイント等、何か良い表現方法がございましたら、ぜひ教えていただければ

ればと思います。

その他、庁内の検討委員会や審議会の中で、「こどもまんなか社会」「サードプレイス」について、分かりやすく説明を入れたほうがよいとのご意見がございましたので、24 ページの下段に「サードプレイス」、31 ページに「こどもまんなか社会」についてのコラムを記載しました。第2章の修正は以上でございます。

第3章の基本理念につきましては、36 ページから 39 ページに記載してございます。前回の審議会におきましては、37 ページに記載してございますA～C案についてご提案をさせていただきましたが、A案を支持する方が多い一方、B案、C案を支持する方もいらっしゃいました。また、全く新しい案や各案のキーワードを掛け合わせたりしたほうがよい等、様々なご意見を頂戴いたしました。その内容を踏まえまして、36 ページに記載してございます3つの案を新たに考えました。

「A 2ベースの改案」として「みんなつながれ！誰もが主役の東久留米の地域づくり」、
「B+A 2ベースの改案」として「世代も分野も超えてともに支え合う、みんなが主役の東久留米の地域づくり」、「A 2+Cベースの改案」として「みんなつながる みんな安心 みんないきいき ともに創ろう “東久留米の地域福祉”」。以上3案でございます。また後ほどご審議等いただければと思います。なお、37 ページから 39 ページの内容につきましては、この審議会で使用する説明文書になっておりまして、地域福祉計画が完成した時には記載いたしません。第3章の基本理念についての説明は以上でございます。

続きまして、40 ページ、「2 基本目標」をご覧ください。基本目標につきましては4つ記載してございます。素案では、各基本目標の下に、第4章の施策展開の内容を踏まえた文章を記載する予定でございます。

続きまして、41 ページ、「3 施策体系」についてでございます。上段に基本理念、その下に「基本目標」及び「施策」を記載する予定でございます。基本目標及び施策につきましては、前回の審議会でもご説明いたしました。第2章の地域福祉のテーマ及び各テーマにおける地域福祉のキーワード等の内容を受けて設定したものでございます。

1枚おめぐりいただきまして、42 ページ、「4 地域福祉を推進する3つの層と圏域の考え方」についてでございます。上段の図でもお示しのとおり、地域福祉活動を広い層から、「全域」「圏域」「近隣地域」の3つの層で捉えております。中間の圏域につきましては、様々な地域資源の横のつながりを構築すると同時に、「近隣地域」と「全域」の活動が効果的に連動する縦をつなぐ役割を果たします。各層の活動主体と活動・機能につきましては、それぞれ下段にお示ししておりますことを想定してございます。「圏域」は東部、中部、西部という形で分けさせていただいております。これは、民生委員協議会が、現在、東部、中部、西部であるということと、社会福祉協議会と相談して、社会福祉協議会のほうも今は東部、中部、西部という分け方をしているということで、この3圏域にさせていただいております。

続きまして、43 ページ、「5 重点的な取組」についてでございます。43 ページから 46 ページにかけて、地域福祉を推進する上での重点的な取組を大きく3つ定めてございま

す。まず、重点1「地域福祉コーディネーター活動の充実」についてでございます。重点ごとの概要の文章につきましては、素案でお示しする予定でございます。具体的な取組といたしましては、福祉総務課の地域福祉コーディネーターに係る事業を3つ抽出し、それぞれ現状と方針を記載する予定でございます。

1枚おめくりいただきまして、44ページには、地域福祉コーディネーターに関するコラムを記載する予定でございます。

続きまして、45ページをご覧ください。重点2「複合的な課題に対応する仕組みの構築（重層的支援体制の構築）」についてでございます。具体的な取組といたしましては、福祉総務課の生活困窮者自立支援事業、地域福祉コーディネーター事業、成年後見推進事業のほか、今後、重層的支援体制整備事業の導入を積極的に検討していく中で、活動の中核となる重層的支援会議及び支援会議の開催を取り上げており、以上4つの事業について、それぞれ現状と方針を記載する予定でございます。

1枚おめくりいただきまして、46ページをご覧ください。重点3「地域福祉に関わる人材の育成と活動支援」についてでございます。具体的な取組といたしましては、福祉総務課の「民生・児童委員への活動支援」、「民間協力者の活動支援」のほか、介護福祉課の「認知症の方の暮らしを支える地域づくり・人材育成」、健康課の「ゲートキーパー養成講習」、以上4つの事業を設定し、それぞれ現状と方針を記載する予定でございます。第3章の説明につきましては以上でございます。

続きまして、47ページです。ここからは、第4章「施策展開」について、48ページから56ページにかけて記載してございます。先ほど、第3章「施策体系」でもご説明をいたしましたが、基本目標及び施策につきましては、第2章の地域福祉のテーマ及び各テーマにおける地域福祉のキーワード等の内容を受けて設定したものでございます。

まず、48ページの基本目標1「誰もがつながり、支え合う地域づくり」の「(1) 市民同士の身近なかかわりを広げる」についてでございます。当施策は、市民生活の中の日常的なかかわりを広げることを目的としたものであり、生活文化課、健康課、生涯学習課の事業を4つ記載してございます。続きまして、「(2) 地域で支えあう活動を後押しする」についてでございます。当施策は、福祉にかかわる人材育成、ボランティア活動の場づくりを目的としたものであり、福祉総務課、介護福祉課、障害福祉課、健康課、図書館、子育て支援課、児童青少年課の事業を9つ記載してございます。また、事業名の左に星印が付いている事業につきましては、先ほど第3章の「重点的な取組」で設定いたしました事業になります。

続きまして、49ページ「(3) 地域での温かな交流の場を広げる」についてでございます。当施策は市民が中心となって行う交流の場づくりを目的としたものであり、福祉総務課、児童青少年課、教育総務課、教育部指導室、介護福祉課の事業を6つ記載してございます。続きまして、「(4) 社会とのつながりを支援する」についてでございます。当施策は、社会とつながりづらい人、つながりを求める人の機会をつくることを目的としており、福祉総務課、障害福祉課、児童青少年課の事業を4つ記載してございます。続きまして、「(5) 地域づく

りを推進する体制を充実する」についてでございます。当施策は、地域福祉コーディネーターの体制を充実することを目的としており、福祉総務課の地域福祉コーディネーターに関する事業を3つ記載してございます。なお、この事業につきまして、書き方がばらばらになっているのですが、今現在は各課から取りまとめたものをそのまま記載しておりますので、表記が統一しておりません。素案までには統一した表記にしていきたいと思っており、今現在はこのような形で皆様にお示ししております。

1枚おめくりいただきまして、50ページをご覧ください。ここからは、基本目標2「地域課題や困りごとの発見・相談・支援の仕組みの充実」についてでございます。まず、「(1) 地域課題や困りごとの発見・相談の仕組みを充実する」についてでございますが、当施策は、多様なチャネル・方法で課題・ニーズを把握する仕組みを充実することを目的としており、地域福祉コーディネーターや生活困窮者自立支援事業に関する、重点的に取り組む事業をはじめ、障害福祉課、健康課、生活文化課、指導室の事業を、計12個記載してございます。

続きまして、「(2) 住民、地域活動団体、関係機関等が協働する仕組みを充実する」についてでございます。当施策は、地域課題に対応するための関係機関同士の協働、市民・地域との協働を進めることを目的としており、福祉総務課、障害福祉課、健康課、子育て支援課、指導室の事業を9つ記載してございます。続きまして、「(3) 情報提供と福祉サービスの質の向上を図る」についてでございます。当施策は、地域課題に対応するための関係機関同士の協働、市民・地域との協働を進めることを目的としており、障害福祉課、生活文化課、子育て支援課の事業を6つ記載してございます。

1枚おめくりいただきまして、52ページには、地域福祉コーディネーターが中心となり発足した、弥生地区の住民自主組織である「住みよいまち弥生」についてのコラムを記載する予定でございます。

続きまして、53ページをご覧ください。ここからは、基本目標3「多様性の尊重と権利擁護の推進」についてでございます。まず、「(1) お互いの違いを認め合い、当事者の意見を尊重する気運を高める」についてでございますが、当施策は、お互いの違い、背景、価値観等を認め合う多様性の尊重、偏見や差別をなくす心のバリアフリー、福祉施策に当事者の意見を反映すること等を目的としており、障害福祉課、生活文化課、指導室の事業を7つ記載してございます。下段に、多文化共生についてのコラムを記載する予定でございます。

続きまして、54ページ、「(2) 一人一人の権利が尊重される社会を形成する〈成年後見制度利用促進基本計画〉」についてでございます。当施策は、東久留米市の成年後見制度の円滑な利用の促進、虐待防止に取り組むことを目的としており、成年後見推進事業を中心に、福祉総務課、介護福祉課の事業を記載してございます。

続きまして、55ページをご覧ください。基本目標4「安心して暮らし続けられる環境づくり」についてでございます。まず、「(1) 立ち直り支援の気運醸成とネットワークを構築する〈再犯防止推進計画〉」についてでございます。当施策は、地域と連携して再犯防止の地域づくりを進めることを目的としており、重点的に取り組む事業でもあります民間協力

者の活動支援を中心に、6つの事業を記載してございます。続きまして、「(2) 緊急時に備え、日頃からのかかわりを進める」についてでございます。当施策は、緊急時に備え、日頃からのかかわりを進めることを目的としており、防災防犯課の事業を4つ記載してございます。

最後に、「(3) まちのユニバーサルデザインを進める」についてでございます。当施策は、当事者の意見を反映しながら、民間事業者と協力して市全体のユニバーサルデザインを進めることを目的とし、道路計画課、行政経営課（施設所管課）、管理課の事業を3つ記載してございます。第4章の施策展開の説明については以上となります。

続きまして、57ページです。ここからは、第5章「計画の推進方策」について、地域福祉計画を進めていくための考え方と進行管理の方法を記載してございます。

1枚おめくりいただきまして、58ページをご覧ください。「1 協働を基盤とする計画の推進」についてでございますが、上段には、市民、関係団体、事業者、関係機関、市が、協働を基盤にし地域福祉を推進する旨を記載してございます。中段から下段にかけては、地域福祉を推進していくにあたり、それぞれの立場で期待される役割について記載してございます。

続きまして、59ページをご覧ください。「2 計画の進行管理」についてでございますが、本計画におきましては、PDCAサイクルの考え方にに基づき実施する予定でございます。なお、下段に記載してございます、計画の施策・事業の実施状況の点検・評価時期や、本計画の見直し時期につきましては、庁内検討委員会や社会福祉審議会での意見を踏まえ、慎重に検討してまいります。

1枚おめくりいただきまして、60ページ、「3 進捗状況を測る指標一覧」につきましては、現在検討中であり、素案の中でお示しする予定でございます。第5章の説明につきましては以上でございます。

61ページ以降は、「参考資料」といたしまして第3次計画の振り返りや統計データ等を記載する予定でございます。

地域福祉計画（第4次改定）の骨子案については以上でございます。

会長：

ありがとうございました。30分にわたってご説明がありました。説明されるほうも大変だったと思いますが、聞いてらっしゃる皆さんも大変だったのではないかと思います。分解して進めていくやり方ももちろんあるとは思いますが、後半の部分にもつながってくる場所もございまして、今日は先に一気にご説明していただきました。ご意見をどうぞという形にすると、前後ばらばらにご意見が出ると分からなくなるような気がしますので、まずは第1章、第2章の、前回ご質問・ご意見を頂いて修正をしたという説明があった辺りから確認していければと思います。そのあと、基本理念の案を再度出していただきましたので、その基本理念について少しご意見を頂くという順番で進めたいと思います。よろし

いでしょうか。

まず、3ページの、最初に少しお話いただいた「コラム」と書かれたところ、ここは前回、互助・共助の話がございましたけれども、改めて確認いただいたところ、私も確認不足だったのですけれども、現行の計画の中にも互助についてきちんと触れられていたということから、この3ページの図は「互助」をきちんと表記しましょうというご説明でした。

続いて、5ページ。これは施策の部分です。ここの施行年月に誤りがあったので修正いただいたというお話でございました。

少し飛びまして、16ページ。第2章のここで、外国人の方々の東京との比較というところで、高い伸びとなっているということを追記いただきました。

そして、20ページ。ここは改めて整理し直していただいたということでございます。

あとは、21ページ。認知症高齢者のことを「ア」と「エ」のところで追記していただいたということだったと思います。

あと、23ページ。ここを「地域福祉のキーワード」という言葉に置き換えていただきました。ただ、キーワードという言葉にしてはこの黒丸のところは少し長いということで、何か良い置き換えがあればということでした。

そして、24ページ。「サードプレイス」ということがなかなか聞き慣れないところもあるということだったので、そのご説明をコラムとして入れていただいております。

また飛びまして、31ページ。同じく、「こどもまんなか社会」も非常に大事なトピックになっていますので、こどもまんなか社会の説明をコラムとして入れていただいております。

以上のような前回から修正いただいたご説明でございました。ここまでの中で、いかがでしょうか。皆様方からご意見、あるいはご質問などございませんか。まずここを確認したいなど、いかがでしょうか。

委員：

様々な修正等、ありがとうございます。3ページのコラムの図に「互助」が入るということで、そのほうがより分かりやすいと思いますが、1点、イラストが気になります。多分変わるのだらうと思うのですが、この場合、共助のイラストが緑のおじさんのような絵が描いてあるのですが、これはボランティアなのか。交通の誘導であれば労働者になるので、分かりにくいような気がするので、イラストはそれぞれにふさわしいものになるとよいかと思います。

事務局：

ここは全く変わる予定です。

委員：

次の時に、できるだけそれぞれの言葉に沿ったイラストになるといいと感じました。

今は第1章、第2章の、会長に振っていただいたところだけに関してですか。

会長：

いいえ、そんなことはないです。もちろんそのほかでも、気付いたところがありましたらお願いします。ただ、取りあえず、まず第1章、第2章の範囲でお願いします。

委員：

「地域福祉のキーワード」というところですけども、言われてなるほどと思いました。今、ぽっと浮かぶところだと、フレーズだから「キーフレーズ」とか「キーポイント」などかと。それは素人の浅知恵ですけども、キーワードとしては長いように思いました。

私は古い資料で確認していたので、ページがずれているかもしれないですが、11ページ、中段の少し下、高齢者福祉計画の下に「障害者計画」というものがあるのですが、これ、「3年毎の計画」となっているのですけれども、東久留米は6年ではなかったでしょうかという確認です。

会長：

では、まずはその3年か6年かというところについて、分かりますか。

委員：

障害者計画と障害児福祉計画と障害福祉計画があるのですが、3年ごとが障害者福祉計画、6年が障害者計画だと思います。大きく2つに分かれていて、理念計画が6年で、数値目標が3年ごとになっているので、書き方を分けるといいのではないかと思います。

会長：

では、ここは事務局のほうで再度ご確認いただければと思います。

事務局：

確認して直します。

会長：

ありがとうございます。続けてありましたらどうぞ。

委員：

20ページで、「ひきこもり家族会支援者」が4名となっているのですけれども、これはどういう内訳なのか。地域の関係者の支援者なのか、うちの代表も入っているのですが、そういった地域の支援者なのか、当事者の役員さんなのか。

会長：

今日の資料の19ページです。

事務局：

これは、いつもチラシを作っていて、その裏面に支援者の方を4名載せているのです。その4人のことを指しています。当事者の支援者は入ってないです。当事者という扱いにしています。

委員：

ほかが割と人数が多めなので、ここが4名というのはどういう内訳なのかと思い、確認させていただきました。

会長：

すみません、今の4名の話は、私は全然分かりませんでした。

事務局：

これは支援者だけを入れていまして、当事者で運営をサポートしてくれている人はこの人数に含んでいない形です。そういったことを、今、説明いたしました。

会長：

ひきこもり家族会支援者というところでは、当事者の方も含めてスタッフになっていたでやっているのだけれども、この4名というのは純粹に支援者のみという考え方ということですね。

事務局：

はい、そうです。

会長：

意味は分かりました。

委員：

それから、21ページの「カ」の部分ですけれども、「地域には社会的に孤立する人や支援を利用しない人もいる」と書いてあるのですけれども、「利用しない」では、自分で選択してしないというふうにとられてしまうような気がします。様々な方がいると思うので、「できていない」、「できない」など、もう少し表現を変えていただいたほうが現実に即すのではないかと思います。

事務局：

「利用しない人もいるし、利用できない人もいる」というような言い方がいいですか。

委員：

はい。本当に主体的に使いたくないという場合や、潜在的ニーズはあるけれども様々な課題などがあって、したいけれどもしないという意味合いもあると思うのですけれども、「しない」では、もう要りませんという感じのニュアンスが強く感じます。

会長：

すみません、今の「カ」のところは私もすごく大事だなと思ってお聞きしていました。改めての発言ですけれども、「利用できない」というような、利用したくてもできないということと、あとは、あえて利用しないということ、ここはきちんと分かるように表記したほうがいいでしょう。最近はこの利用をあえてしない人というところにもしっかりと目を向けて行くというのも、また大事なところだと思ってお聞きしていました。

続けてどうぞ。

委員：

24 ページの 1 段落について、「地域の居場所(サードプレイス)を増やし」の辺りに、空き家活用ということも入れていただけると、より具体的で分かりやすいのではないかと思います。

それから、27 ページの一番下の、「審議会意見 ▶生活自立支援施策の充実」の上から 3 番目の黒ポツのところについて、「孤立・孤独支援法への、自治体の努力義務が必要であり」ということなのですけれども、これはもう少し具体的に、孤独・孤立対策地域協議会の設置が努力義務化されていると言うほうがいいのではないかと思います。

事務局：

27 ページにつきましては、意見をそのまま載せているので、変更すると変なことになってしまうので。

委員：

そうですか、分かりました。これは私が言った意見なのですが、その時は、こういうふわっとした言い方をしましたけれども。

会長：

別に内容を変えたいということではなくて、改めてここを丁寧に言うならば、「自治体の努力義務」というのをより明確にという意味ですね。

委員：

はい、そうです。

事務局：

分かりました。

会長：

もう一回言ってもらっていいですか。

委員：

「孤立・孤独対策地域協議会の設置が努力義務化されている」ということです。

会長：

分かりました。どうぞ続けてください。

委員：

あと、第2章について1つです。30 ページの2番目の丸ポツのところ、これも私が言ったものなのですが、「市長申立要件の整備」とあるのですけれども、これだと、市長申立というところを進めているみたいな感じで、少し強そうな感じがするので、前のところから、「成年後見に関わる報酬助成等の利用における要件の緩和」のような感じで、市長申立要件みたいなところではなく、「成年後見に関わる報酬助成の利用における要件の緩和」のようなほうがいいのではないかと思います。

会長：

報酬助成。報酬ですね。その助成。

委員：

市長申立だけではない形も今後検討していただけたらということだったので、本人や家族などの申し立ても報酬の助成の対象にしていただけたらと思ひまして、そこも検討していただけたらよかったので。

会長：

市長申立のみではなく、より詳しくということですね。

事務局：

うちの課だけで決められるものではないので、少し検討させていただきます。

会長：

ありがとうございます。そのような感じで、第1章、第2章までで、ほかにいかがでしょうか。

委員：

3ページの「地域福祉」の件ですが、障害分野としてはもともと自助をずっとやってきて、地域で受け入れてくれてまだ40年しかたっていない中で、自助・共助というのはなかなか障害分野にはなじまないというところがあって、この書き方は我々としては厳しいのですが、障害分野だけの話ではないので、ここはここで進めていくということであれば、古い資料の13ページのSDGsのところ、ここは東久留米市の推進ということで、持続可能な開発目標ということにはなっているのですが、もともとの目標としては、「誰一人取り残さない」という、グローバル社会を目指すというところがあって、その中で最も遅れているところに第一に手を伸ばすという趣旨がSDGsにはあるので、そういう意味では、障害分野の人たちやジェンダーの人たちなど、遅れている人たちに手を差し伸べようという文言を入れていただくと、地域福祉の共生社会ということとSDGsの誰一人取り残さないで、最も遅れているところに第一に手を伸ばしましょうということにリンクしてくると、障害分野としては受け入れやすいと思いますので、検討していただくとありがたいです。

あと、「SDGsの目標」の表の、1、3、4、8、10、17という数字が分かりにくいです。

事務局：

これは、下の図の数字です。

委員：

このことですか。分かりました。

あとでも話をしようと思ったのですが、人権という部分では、これから本当に、皆さん、スマホなどでよく見ると思うのですが、グループホームはもうけられますみたいなことがすごく拡散していて、我々もグループホームを造りたいと思っても、全国展開しているところはどんどん大手建設会社がバックで、銀行も融資してくれているので、我々では太刀打ちできない形で、そういった事業所が増えていくことも予想されるので、その中でも、何かあっても誰一人取り残さないのだという姿勢は貫いていけるといいのかなと思い、発言させていただきました。

会長：

ありがとうございます。今の話は、私もすごく大事だと思ってお聞きしておりました。この図は変わるということではありますけれども、確かに、ここに互助が入ったとて、障害をお持ちの方々のこれまでの長年のいろいろな思いが自助という言葉に包含されるのは、な

かなか受け入れがたいという思いと、でも、一般論として見るならば致し方ないというところで、このSDGsの中に、せめて、誰一人取り残さないのだという大目標というか、大きな理念というところをもってして、障害の方々、あるいはジェンダーの立場にある方々の思いを伝えようという、非常に大事なご発言だと思ってお聞きしていました。

委員：

●●委員の意見に乗かって、13 ページのところですけども、今、都内の社協では、SDGs を地域共生社会と結び付けて考えるときに、おっしゃっていただいた「誰一人取り残さない」と、もう一つ、「誰もが活躍できる」と、あともう一つ、「持続可能な地域づくり」という、その3つがSDGsと地域共生社会の親和性が高いところではないかと思っています。取り残さないということに、誰もが受け手支え手という中でただの受け手ではなく活躍できるということと、それから、地域の子どもたちの話が出ていましたけれど、次の世代にも安心してつなげることができるようなという、その3つがSDGsととらえることと地域共生社会の近いところではないかと思っております。

ちょうど、今、13 ページなので、本当は別の意見をお伝えしようと思ったのが、12 ページの「市民意識調査」から出てきているものを、丁寧に後ろの「地域福祉のテーマ」という21 ページ以降のところに取り上げてくださっているのですけれども、せっかく実施していただいた市民意識調査の結果などは、参考資料で載せるなどするのでしょうか。

事務局：

どこまで載るか分からないですけども、皆様に冊子ではお届けしたかと思っておりますけれども、あれくらいの結構なボリュームになってしまうので、この計画自体に載せられかどうかは、今現在、すぐには答えられません。

会長：

今の意見は統計の前の話で、先ほどの●●委員の発言と非常に関連する内容ではないかと思えます。誰しも取り残さないという視点だけではなく、誰しも活躍するということと、それを次世代につなげていくという、ここが頭出しのこの6番のところであると、まさに東久留米オリジナルというか、ほかのまちで仮に使われていたとしても、こういう議論をしてここに載せたということにとっても意味のあることだと思えますので、言葉の選び方が難しいかと思えますが、ぜひその辺りについて次回までに少し検討いただけたらありがたいと思います。

委員：

先ほど外国人の話が出たのですけれども、前回、私も質問したのですけれども、5年間で130何パーセント伸びるということは、この計画が終わる時に5,000人弱になるのです。そ

うすると、東久留米で言いますと、1つの町が完全に全部外国人に変わったのと同じような想像ができる。そうしますと、その辺の取組を書くのは、分からないから別として、ジェンダーや性同一性のところの項目に、急速に増えていく外国人に対する項目を一言でも入れたほうがいいのではないかと私は思ったのですが、そうではないというご説明なので、特別にこの5年間だけ増えたのであって、これからはそんなに増えないというのであればいいのですけれども、ずっと増えていくと、5,000人は大きいと思いました。

事務局：

外国人住民につきましては、このあとの推計が出てないので、比例して伸びていくのか、今急激に伸びて止まってしまうのか、その辺がまだ全然分からない状況です。

委員：

ただ、30パーセントがなぜ伸びたのか、そこを検証したら、大体、自然に伸びているのか、何か特別のことがあって伸びたのか、特別のことがあって伸びたのであれば、そうないでしょうけれど、インターカレッジもありますし、だから、ほかの地域にない特徴が東久留米市にもしあるとすれば、とそのように感じました。

事務局：

確認はしてみますが、結果論なので、今のところ、外国人が伸びたという検証はなかなか難しいかと思います。

会長：

非常に大事な問題です。逆にこれから伸びていく可能性もあるかもしれないし、まずは現状を確認いただくということは必要ではないかと思います。ここまで計画も進んでいるので、今から調査ということはなかなか難しいかと思いますので、まず現状の把握ができるか、そして、現状の中で分析ができていくかというところは確認していただいて、もし何かしら他の課やセクションでそういった把握がされていてエビデンスが得られるのであれば、少しこの文章にも盛り込むということも、可能性として考えていけるということでもよろしいでしょうか。ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。時間も限られていますので、取りあえず次に移らせていただいていいですか。

35 ページ、「計画の基本的な考え方」の「基本理念」のところです。前回、皆様方一人一人からご発言を頂きまして、それを事務局のほうで36 ページのような案に整理していただきました。どうでしょうか。事務局として、またここに意見をもらいますか。

事務局：

ここに意見をもらおうと切りがないと思います。全員が一致するという形にはならないと思うので、どうしたらいいか悩ましいところです。

会長：

ここで今日結論は出さないとしても、もう一度、先ほど説明していただいた繰り返しで構わないので、この 36 ページの A 2、B + A 2、A 2 + C の説明をもう一度お願いします。

事務局：

大した説明はしておらず、これを読み上げただけです。「A 2 ベースの改案」は、最初は「みんなが主役の……」だったものを、「誰もが主役の」に変えたという案です。B + A 2 は、ともに支え合うということを、「世代や分野を超えて」ではなく「世代も分野も超えて」に変えたことと、あと、「みんなが主役の“東久留米の地域づくり”」というのは残しています。A 2 + C 案は、基本的に C 案なのですけれども、A 案の「みんなつながる」というところを入れていることと、「ともに創ろう」という部分は C を改良した形になっています。

会長：

ありがとうございます。基本理念ですから計画にとって非常に重要です。これを見れば、東久留米の地域福祉はこうなのだと言いたいのだということになるので、非常に大事なのですけれども、本当はホワイトボードで投影して、一言一言検討すればいいと思うのですが、なかなかこの審議会の中ではそれは難しいというのもご理解いただきつつ、ぜひここで発言したいという方がいらっしゃれば頂ければと思います。

委員：

B + A 2 がいいと思いました。「みんなが」というところに疎外感を覚えるということがすごくあると思うのです。地域福祉の基本理念ということ考えると、先ほど磯部委員と森委員から SDGs のことを話していただいたところで、私もはっと思いまして、「みんなが主役の」のところを、「誰一人取り残さない」や「誰もが活躍できる」などに言い換えると、より目指す方向がはっきりするような気がして、先ほどのお二人の意見を聞いて、どちらかのほうが次世代につながっていくようなイメージが湧くと思いました。

会長：

ありがとうございます。「みんな」という言葉を意識せずつい使ってしまうがちですけれども、「みんな」の捉え方は、特に先ほどのご発言のような立場にある方々にとってはということ考えると、「誰しものが」とか「誰も取り残さない」といった言葉に置き換えるということも確かに大事だという気がいたします。

今のような感じで、ここでご意見を頂ける方はいらっしゃいませんか。

ここについてどう進めたらいいか、私も分からなくなってしまったのですけれども、どうしましょうか。次回でも大丈夫ですか。

事務局：

次回でも大丈夫です。最終的には、皆さんの意見を集めてこうなりますとこちらが決めざるを得ないだろうと思います。皆さんの意見をできる限り尊重して、キャッチーないい感じの理念になればと思っています。

会長：

ありがとうございます。今のように、このフレーズはというところがあれば、ここで発言いただくと、それがこの審議会の中での意向という捉え方をして文章にさせていただけると思いますので、このあともぜひ、今日の場面に限らず、ここはぜひということが浮かべばご発言いただければと思います。ここは事務局の皆さんは苦勞されると思いますが、よろしくお願ひいたします。

よろしいでしょうか。では、基本理念につきましてはそういうことにしたいと思っています。

残す基本目標について、かなり具体的な事業などの話、あるいは計画の推進法というところにも触れていただきました。基本目標以降についてご発言いただければと思います。

委員：

42 ページの「地域福祉を推進する3つの層と圏域の考え方」の「近隣地域」について、「隣近所、自治会、小学校区」とあるのですけれども、これは中学校区ではないのですか。小学校区は小さいイメージがあります。実際のところ、青少協なども中学校区のつながりで活動しているようなイメージがあったので、どうなのだろうと思いました。

会長：

1点ずついきたいと思っています。マイクはそのまま持っていてください。

近隣地域、圏域の捉え方について、今の中学校区という考え方について、いかがですか。

事務局：

検討してみたいと思います。

会長：

では、ここは次回までに検討いただくということです。

委員：

実際のところで動いているのは中学校区で、青少協で地域のつながりの中での気がする
ので、小学校単位より具体的な動きなのではないかと。

それから、43 ページに、「地域福祉コーディネーター活動の充実」とありますが、これは、
今は1人なのです。これだけ増えていくといいなとわくわくするのですけれども、そこを増
員していくかどうかというところは、充実させるのであれば明確にさせていただいたほうが
いいと思います。

事務局：

それは、一番上の「地域福祉コーディネーターによる地域支援」の「方針」のところで、
「地域福祉コーディネーターの増員を図る」とうたっています。

委員：

分かりました。すみません、気付きませんでした。

48 ページの、「市民同士の身近なかかわりを広げる」の（1）について、「施策の主旨を文
章で掲載」とあるので、このあとに広げていただくのだろうとは思いますが、事業
が4つあるうちの「生涯学習活動の充実」というところですが、生涯学習は自己実現
のためなどにとっても大事な部分かと思うのですが、東久留米のホームページなどを
見てもあまり理念が明確ではない印象があって、ホームページで「生涯教育」と調べると、
「社会教育のあらまし」という感じで、具体的などころでは市民文化祭とか市民大学とか、
あとは、防災まちづくりが入っているのはいいなと思ったのですが、どうも生涯学習
がカルチャーセンターのような感じなのですが、そうではなく、この地域福祉計画の
支え合う地域づくりというところで掲載していただくにあたっては、地域コミュニティの
育成とか地域振興といった取組も生涯活動のところに入れていただくといいと思いました。

事務局：

これにつきましては、今お答えできる立場にはないので、ご意見として伺います。

会長：

スタイルとしては、ここの「事業」には事業名が載るのですね。

事務局：

はい。

会長：

大事な視点だと思うのですが、出し方として、今のようなことをどれくらい盛り込
めるかは。

委員：

生涯学習の東久留米の理念みたいなものがあれば、それを載せていただければいいのではないかと思ったのですが、そこが出てきていないように感じます。

会長：

なるほど。確かにそれはどこにもないです。

委員：

やはり生涯学習とは何だろうというところを、文科省のホームページなどにあるような理念を、東久留米なりに考えたものが掲載されるといいと思いました。

会長：

私も確認をしなければいけないと思っていました。確認ですけれども、この48ページで言うと、それぞれの、ここで言うと(1)で「市民同士の身近なかかわりを広げる」というところの下に、「施策の主旨を文章で掲載」とあるのは、このあとさらに詳しく載るということでよろしいですね。

事務局：

そうです。このあと文章化する形になります。

会長：

そうなる、ここの中で今のようなお話を盛り込む可能性もあるということですか。

事務局：

それはまた話が違ってきます。今の点は福祉総務課の範疇から外れているので、理念をどうするか、ここに盛り込むかなどは、今言うことはできません。

委員：

意見の1つ。やはり社会が変容していくところに、常に学び続けて自己実現、自己変革していくというのはすごく大事なことだと思っていて、そこはこの中では生涯学習のところに入るのではないかと思いました。せっきくの機会なのでご検討いただければと思います。

49ページの、「(3) 地域での温かな交流の場を広げる」というところですがけれども、今年からフリースクールも補助事業になったと思うのですがけれども、それはこの事業で言うところにあたるのか、どこの課が担当するみたいなことも掲載する上で大事な気がします。生きづらさを抱える方の居場所づくりということですがけれども、入ってないと思いました。教育委員会か子ども・子育てのところのどちらかではないかと思うのですが、確認して

いただければと思います。

事務局：

関係部署がどこなのかを含めて確認したいと思います。

委員：

お願いいたします。

59 ページの「計画の進行管理」のところで、PDCA サイクルを載せていただいて、計画の進行管理がよりしやすくなったのではないかと思うのですが、下の説明の文章の 2 段落目の「必要に応じて計画の施策・事業の実施状況を点検し」というところで、前回の時に私も振り返りを年に 1 回などすべきではないかということを提案したのですが、やはり難しいということで、このような書き方になったのだらうと思うのですが、ただ、この「必要に応じて」という書き方ではあまりに曖昧な感じがします。必要に応じてであれば、確かに必要であろうと思うのです。現行では難しいということであれば、例えば、今週土曜日に行われる地域市民フォーラムの定期的な開催などで進捗状況の発表の場を設けて市民の意見を聞く場を設けるとか、そんな形ででも掲載していただけないかと思いました。以上です。

会長：

最後は評価についてでしたが、現時点で事務局としてのコメントはありますか。

事務局：

評価ですが、下にいろいろな課の計画がぶら下がっていて、その計画を各担当のほうで毎年見直しをしているかというところ、それはしてない計画もあります。その中で、この地域福祉計画を毎年見直すというところ、どこを見直すのかというところがあまり見えてこないもので、こういった「必要に応じて」という表記にさせていただいたという経過がございます。

また、その下には、「計画策定から 5 年後を目途に本計画の見直しの必要性を検討」としておりますので、今、担当として考えているのは、5 年後には見直しをかけようというところは、10 年の計画なので 5 年に一度の見直しは確実にやりたいと思っているのですが、毎年見直しをどういった形で行うかというところが、例えば大きな制度改正があって、下の各計画が変わるということであれば、そういったところに関しては見直しができると思っております。そういったことで「必要に応じて」という表記にさせていただいているというのが現状でございます。

会長：

ここは確かに、地域福祉計画は上位計画ということになっていきますので、各課がそこにぶ

ら下がっていて、各課の取組が必ずしも同じ評価や見直しで進んでいるわけではないということで、今、部長がおっしゃったところはそのとおりだと思います。

一方で、△△委員がおっしゃっているところは、私が想像するに、地域福祉という文脈のところだけを切り取って考えたときに、平たく言えば、ここの計画の中にたくさん書かれている地域での様々ないろいろな取組であったり、住民のいろいろな場であったり、そういったところがこの計画策定後にどのように変化しているのかというところを、さすがに5年間確認しないというのも開きすぎかもしれないというところもありますし、ここは、何かうまい言い方で、見直しという以前に確認をすとか、評価をすとか、そういう、その前の段階の表現でここに載ってくるといいのではないかと思っていたところでございます。そのあたりは、内部でまたご検討いただければということでお願いできればと思います。

そのほか、ご遠慮なくご意見を頂ければと思いますが、いかがでしょうか。水澤委員、お願いします。

委員：

今のお話と少し似ているかもしれませんが、確認です。40 ページの基本目標で「誰もがつながり、支え合う地域づくり」からひも付いて、41 ページの施策体系で、ここでまた「誰もがつながり、支え合う地域づくり」で、(1)の施策が「市民同士の身近なかかわりを広げる」。そこだけ見ると、ではどうやってこれを広げていくのかと一見見えてしまうのです。それが、こんどは48 ページ、これも「誰もがつながり、支え合う地域づくり」ということで、現状でこういう施策と主な事業がありますよというところで、そうすると、これだけでは市民同士の身近なかかわりを広げるというのは、具体的にどういうことなのかが見えてこないで、これが第5章の「計画の推進方策」につながっていくのですか。少し感じるのが、41 ページでも、「地域で支えあう活動を後押しする」、では具体的にこれはどのように後押ししていくのかなど。つながりが、どこを見ればいいのか、どこで考えていくのかとか、一般の声を聞いて一般向けでやるわけなので、これだと何か見えてこないというのが私の印象です。

会長：

ありがとうございます。41 ページのこの見栄えというか、まずこれを見たときに、施策の具体的には何をすのかというのは、当然、この表では見えない。それで、48 ページの「施策展開」というところにその辺りが出てくるのかなど。ただ、今の現時点では、ここは事業の説明になってしまっているのも、もしかすると上の「施策の主旨を文章で掲載」というところに少し盛り込まれる可能性はあるかと思うのですけれども、いずれにしても、ほかの方などが見て、では具体的にというところはなかなか見えにくいのではないかというご発言かと思います。今のところについて、いかがですか。

委員：

関連します。この48ページの(1)のところの件で、「市民同士の身近なかかわりを広げる」という中ではこう挙がっているのですが、東久留米で長年やらせていただいている、お祭りみたいなものは全然ないのですけれども、そういう楽しいことをしないと、なかなか市民の身近な広がりがないのではないかと思うので、そういった地域のお祭りを、生活文化課でもいいので、そういうものを活性化するような感じがあるといいのではないかと思います。

それで、「市民スポーツの振興」で、少し違うけれども、昔は地域運動会があって、我々障害者団体も一緒に運動会に参加させていただいて、すごく地域の人たちとつながりを深められたかなど。車椅子で競走するなどして、よかったなと思うのですが、そこは、運動会がなくなってしまったというのがあるので、やはり何かそういうものがあるといいなと思うし、あと、白山公園の花見がなくなってしまって、それも少し寂しいというのもあったりとか、何かそういう楽しい具体的なものを示していくことで、市民の人たちも、「ああ、こういうことをやれたらいいね」というふうに見えるのかなと思います。

あと、「地域で支え合う活動」ですけれども、今でもやっていると思うのですが、障害関係は「ポカポカはるのつどい」というもので、障害のある子どもたちと学校の中学生たちが一緒に遊んだり、「お日さまサンサンフェスティバル」というものもあったのだけれども、そういったこともやっていたし、子どもまつりはまだ今でもやっているのですか。もうやってないですか。お祭り系がだんだんなくなってしまったので、そういうものをまた活性化できるといいのかなと思いました。

会長：

ありがとうございます。今、2点、▲▲委員がおっしゃったのは、少し見栄えというか、ここに具体的な取組がつながっていくのかということと、それに関連して磯部委員から、お祭りのような場も、つながりや関係をつくっていくとかいうような楽しい場として地域福祉の中でも大事なのではないかというようなお話でしたけれども、いかがですか。この時点で何かご発言できますか。

事務局：

つながりについては、これは骨子案なので、今後また練ってまいりたいと思います。

お祭りについては、今ぱっと思い浮かぶのは市民まつりですね。

夕涼み会は、ここに載せているのは市の事業として載せているので、その辺をどう絡めていくかは検討課題になるかと思います。

会長：

ありがとうございます。見せ方というところは、確かに今計画を拝見していて、どこに具

的に書いて表現していくかというのは、苦勞もあるかと思ひます。

委員：

58 ページのところ、このままでも別に構わないかなと思ひながら、少し気になるので。先ほどから具体的にどうなのかという話が出ていましたけれども、ここは具体的すぎて私は抵抗を感じました。58 ページの表の中の、「主体」の「市民」でこのように書いてあるのですが、下から2行目の後半の、「地域活動や募金などの助け合いに可能な範囲で協力しましょう」の「募金」に少し引掛かりました。いいのだけれども具体的すぎて、ここに「募金」を出す必要があるのかどうか。「地域活動に積極的に参加する」というような形のほうがいいのではないかと。その中に募金も入るのかは分かりませんが、少し気になりました。募金をしなさいみたいに捉えられるのではないかと思うので、少し細かいですけれども、その辺が気になりましたので、検討していただければと思ひます。

事務局：

そのとおりだと思ひます。

会長：

実は私もここは少し気になっていたのですけれども、そもそも、この「期待される役割」の文章表現は、今までのどこから出てきて上がってきたかという記憶が定かではないのですけれども、ありましたか。これはあくまで、全部現時点の案ですけれども、案として載せているものですか。

事務局：

この辺はコンサルと調整していきたくと思ひます。

会長：

そうやって素案を事務局で練って載せていただいたということが確認できればいいと思ひます。なので、この中身はよく見たほうがいいと私も思ひました。例えば関係機関、確かに社会福祉協議会は重要ですし、地域福祉推進についてはこういった役割を期待するというのは当然なのですけれども、このままの言い回しでいいかとか、この辺りは少し、次回に向けてでいいと思ひますけれども、この委員会の中でも最終確認はしたほうがいいという気がします。

委員：

質問も含めてですけれども、42 ページの圏域のところですが、「圏域」、「東部、中部、西部」というふうに出したとき、地域包括支援センターの名前も一緒に挙がってくるの

ですけれども、その辺が「地域福祉を推進する3つの層」というタイトルからすると、そぐわないと考えてよろしいでしょうか。だから、「地域福祉コーディネーターの配置」、「近隣地域の活動支援」、「地域資源の連携」というふうにまとまっているということですか。

事務局：

そぐわないというよりは、社協の3つの圏域と、地域で活動している民生委員の3つの圏域というところを重視しました。

委員：

分かりました。先ほど意見が出ていましたので、やはり58ページの言葉のところは再度考えていったほうがいいのではないかということと、それから、「関係機関」のところに「社会福祉法人は」という文言が入ってくるのですけれども、事業者でもあるので、その辺のすみ分けがどうだったかなと思いました。感想です。

会長：

ありがとうございます。繰り返しですけれども、58ページに書いてある「期待される役割」については、ぜひ委員の皆さんも次回に向けて目を通していただきたいと思います。ここでの意見が事務局のほうで素案を作るにあたって大事な要素になってきますけれども、なかなか、ここを掘り下げるのは時間的な制約があるので、ぜひここはご一読いただいたほうが良いと思うので、よろしくお願ひしたいと思います。

そのほかで、いかがでしょうか。成年後見制度利用促進基本計画、再犯防止推進計画も含まれていますので、何かお気付きの点など、ご発言いただけるのであればお願いします。

委員：

先ほどおっしゃっていたお祭りなどについて、私は地域で少年野球をやっているのですが、滝山祭りなども縮小されて、子どもたちが楽しめるようなことが少なくなっているのは確かだと思います。私は保護司をしていて、再犯防止で、生涯学習センターで中学生の音楽祭を毎年行っています。今回は中学校の吹奏楽部や小学校のコーラス部など、500人収容の所で結構盛況に吹奏楽ができたのです。3年くらい前はコロナでできなかったのですが、かなり盛況だったので、そういうものは教育にも、中学校も7校が参加して、音楽祭をするのに1年がかりでやったりしているのですけれども、やはりそういういろいろな業界とつながらないとなかなかできないことなので、そういう中から安心・安全なまちづくりということで我々保護司会はやっているのです、そう感じます。まず取り残さない、安心・安全なまちづくり、これが一番大切なことだと思います。今はそういうことで進めています。

会長：

ありがとうございます。再犯防止推進計画の立場から見ても、お祭りのような機会など、皆さんが集うということがベースになっていくというご発言だったと思います。

委員：

少し戻って申し訳ないですけれども、21ページの「地域福祉のテーマ」の「エ」の認知症高齢者に関して触れていただいた部分ですが、何度読んでも文章が分かりづらいです。どう直したら分かりやすいのかというのは難しいのですけれども、後期高齢者の増加というところと障害者の方の話がごっちゃになって記載されていて、最終的に認知症高齢者のケースが増えるという結びになっているところが分かりづらいので、もう少し整理したほうがいいかと感じました。

あと、54ページで、基本計画のところだけではなく、後見人の担い手が不足するだろうということは喫緊の課題だと思っていて、市民後見人さんの養成というのはすごく大事だとは思いますが、やはり親族の後見人さんにもっとどんどん活躍していただかないといけないと、個人的に思っています。親族の後見人さんの支援という部分も、今、各市町村のほうに期待されているところかと思うのですが、一番上のところで、「成年後見人等の支援」と記載していただいているので、この成年後見人等の支援は、専門職の後見人の支援は社協さんなどでやっていただいているので、これは両方を含む意味なのだろうとは思いますが、親族の後見人さんへの支援と、我々のような専門職に対する支援は中身が全然違う。親族後見人さんの支援というのは、その親族後見人さんに対してのメリットという言い方はあれですが、結果的にそうなるのですけれども、私たち専門職への支援というのは、結局、ご本人さんに対するメリットという部分で、全然内容が違うのではないかと思うので、親族後見人さんへの支援など、そういう部分をもっと強調する方がいいのではないかと。

親族後見人の方で、後見人になることへのハードルをすごく感じてらっしゃる方が多いと思う一方で、そこはあまり考えずに、簡単な気持ちで後見人になって、結局、最終的に裁判所のほうで不適切となると、我々が調査人という形で選任されて、私たちが直接、親族後見人の調査をするようなことがあるのですけれども、後見制度を全く理解されていない。こんなの一発アウトだみたいなことを結構やってらっしゃる方もいらっしゃるので、その情報不足を市のほうで補っていただけるといいなと思います。我々に頂いている支援もそうなのですが、親族後見人さんに対する支援というところを分かりやすく記載する方がいいのではないかと思います。

事務局：

ありがとうございます。親族後見人の支援につきましては、今、社協のほうにも委託してやってもらっているところですので、ここはまた別記して強調できるような形で整理したいと思います。

それと、最初に言われた 21 ページですが、ここは実は、正直言いまして、この前の庁内の検討委員会でも言われている内容で、ここは文章がおかしいと分かっていつつ、どんな文章がいいか思い浮かばずに、そのまま取りあえず今回は一回出して、こういった内容を書きたいというイメージだけを載せさせてもらったところです。申し訳ございません。指摘していただいております。そのとおりですので、ここはきちんと直します。

会長：

正直にありがとうございます。今後はぜひ説明の段階で正直に言っていただけてよいかと思います。

そのほか、お気づきのところやご意見はいかがでしょうか。

委員：

56 ページのユニバーサルデザインのところですけれども、ここは本当に長い間やってきている部分だろうと思います。車椅子の利用者が結構多いので歩道なども歩くのですが、30 年前から全然変わっておらず、車椅子が通れないような所などが結構東久留米にはあるのです。だから、「進める」とあるけれども、できれば、これまでの取組みたいなものを少し、このようにやってきたという積み重ねみたいなのが分かるような感じで書いていただけるといいと思います。別に初めてやるわけではなくて、ずっと積み重ねてきているのだらうと思うのです。でも、やはりなかなか、市の財政もあるし、いろいろなこともあると思うので、そういった積み重ねてきているという姿勢が見えるような文章を書いてもらえるとうれしいと思います。

会長：

そのほかございますか。

委員：

53 ページ以降の「多様性の尊重と権利擁護の推進」のところについて、気になるのが、「高齢者権利擁護事業」のところに「高齢者虐待の防止と養護者支援」とあるのですけれども、児童虐待など、もっと若い世代の虐待であるとか、そういったものはどこに含まれているのですか。それはこの（1）の「お互いの違いを認め合い」のところに入ってくるのでしょうか。高齢者虐待や権利擁護はたくさん出てくるけれども、そういった文言がないようなので気になりました。

事務局：

難しいですけれども、入れるならば 50 ページの基本目標 2 の（1）のところにあたるのではないかと思います。ここで、生活文化課では男女平等のほうで「配偶者等からの暴力防

止と被害者の自立に向けた支援」ということでやっている形ですけれども、あと、関係する部署と調整して入れられるか検討したいと思います。

委員：

関連ですけれども、障害者分野で、経済的虐待が結構大きい問題になっています。かなり複雑化してきているので、先ほど初鹿委員に言っていただいたように、障害分野でも虐待という視点をきちんと持って、地域福祉の課題としてやらないといけないのではないかと思います。

会長：

ありがとうございます。地域福祉計画なので児童虐待そのものを取り上げるのはあれかもしれませんけれども、おっしゃったとおり、そういったものを地域の中でどう発見するのか、支えていくのかというような文脈で、今、事務局がおっしゃった、基本目標2の(2)、(1)といったところで包含していけるかどうかというところをご検討いただければと思います。

そのほか、いかがでしょうか。

委員：

49 ページの一番下の「(5) 地域づくりを推進する体制を充実する」の表の一番下に、「地域福祉コーディネーターの育成」が★印付きで入っているのですが、前のほうのページの重点事業のところには、地域福祉コーディネーターの育成が出てこないのも、もしかすると、前のページの重点事業では地域福祉コーディネーターの育成が落ちているのではないかなというのが1つです。

同じページですが、49 ページの(4)のところを進めていこうとすると、恐らく(3)、(5)とすごくつながりながらやっていかなければいけないと思っています。特に(4)の「社会とのつながりを支援する」の事業を拝見すると、ここに挙げていただいている事業が、まだまだ幅が狭い感じがすることと、当事者側に社会とつながるということを求めているような感じもあって、(5)に入るのかもしれませんが、地域側がもっといろいろなことを理解するというような、子どもに対する福祉教育や、同様に地域に対する理解を進めていくというような視点が、この(4)や(5)のところには本当はもっと要るだろうというのが1つです。

51 ページについて、(2)と(3)の「主旨」のところに書いている文章が、同じものが入っているので、もしかすると下のほうの文章は上のものがそのまま入ってしまっているのではないのでしょうか。そうすると、(3)の情報提供のところももう少し書き込む必要があるとすると、今のような主旨を知ってもらうということを進めていくとともに、あと、市民意識調査の中でも、どのように福祉サービスの情報を得ているかなどのお話で、インターネ

ットなどを使っているなどいろいろな話がありましたが、(3)の情報提供のところに並べていただいている事業で、福祉に関する情報を市民が分かりやすく手に入れることができるような情報発信のことが少ないと思いました。

53 ページの(1)について、「福祉施策に当事者の意見を反映する」というところの括弧書きの中に、「高齢者、障害者、子ども、事業者ほか」と書いてあるのですが、当事者の中にわざわざ事業者を入れるのがいいのか。当事者を「高齢者、障害者、子どもほか」にして、「当事者、事業者の意見を」のほうがいいのではないか。あえて事業者を入れたほうがいいのかどうかというのが少し不思議だと思いました。

このところに関連するのが、今回せっかく入れていただいた、31 ページの「こどもまんなか社会」のコラムですけれども、下から4つ目の●に、子どもについて「自らの意見を持つための様々な支援を受けることができ、その意見を表明し、社会に参画できる」といったことを子どものところで挙げていただいています。そう考えると、この53 ページの「当事者の意見を反映する」というところも、まちの姿勢だけではなく、当事者の人たちがそういったことの意見を表明できるようないろいろな機会をつくっていくというところが、待っているだけでは意見は出てこないと思うので、特に障害のある方などの意見を出しやすいような工夫が必要ではないかと思いました。

最後に、55 ページについて、「安心して暮らし続けられる環境づくり」というふうに、地域づくりではなく環境づくりとしたほうがいいのかという意図が何かあるのかという質問です。以上です。

会長：

ありがとうございました。最後の55 ページのところ、ここを「環境づくり」とした意図がもしあればということですが、いかがですか。

事務局：

確かに「地域づくり」でも全然おかしくないのですが、そこは内部でまたもみたいと思います。

会長：

そこはまたご検討いただいて、あとは、今ご発言いただいたところを踏まえて、先ほどの主旨、そのあと「施策の趣旨を文章で掲載」というところの文章作りに、ぜひ反映なり、生かしていただければと思います。あとは、49 ページの「地域福祉コーディネーターの育成」が重点になっていますが、43 ページのところはないというのは、確かにそうです。そこは整合性を合わせていくといいと思います。その他、大事な視点を今お話しいただきましたので、先ほどの主旨のところなどに反映をしていただけるように、よろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございます。

いかがでしょうか。9時も迫ってまいりましたけれども、よろしいですか。

委員：

磯部委員と初鹿委員から頂いた虐待のところ、地域の困りごとのところで、相談できるのはほぼ地域のみとか、あと、経済的虐待ということを言われましたけれども、どんなものが虐待なのだろうかというのは、実は意外と知られていなかったりするのです。親同士が怒鳴り声を上げているというだけでも、それは心理的虐待にあたるとか、あと、適切な養護を受けていないマルトリートメントの問題といったこともコラムになってもいいのではないかと思います。

会長：

虐待について、もう少し最新というか、今取り残されているようなところをフォローできるようなコラムをとということです。ありがとうございます。

そのほかはよろしいでしょうか。

全体を通して最後にだと思ふのですけれども、難しい言葉というのでしょうか、今おっしゃったマルトリートメントなど、いろいろ横文字も最近どんどん増えています。この辺りも、注釈が付いているところと付いてないところがあったりするので、それを最後の語句説明にするのか、注釈でいくのかなども、このあと整理していくといいのではないかと私も感じていました。「ゲートキーパー」なども当たり前と言われてはいますが、一般の方はゲートキーパーと言われてもサッカーのキーパーのようなイメージをお持ちなのではないかと思ふので、よろしくお願ひします。皆様、こんなところでよろしいでしょうか。

それでは、たくさんご意見を頂きましてありがとうございました。だんだん具体が挙がってくると、当然具体的なところがたくさん気になって、ご発言もたくさん頂けて、事務局は大変だと思ふのですが、いろいろと修正など、よろしくお願ひしたいと思ふます。ありがとうございました。

3 その他

会長：

続きまして、次第3「その他」でございます。事務局からお願ひします。

事務局：

次回の審議会及び部会についてでございますが、先ほどお話ししたとおり、10月の開催を予定しております。詳細が決まり次第、皆様にお知らせいたします。

また、今週末、8月3日（土曜日）に、東久留米市役所のここで、地域福祉に関する懇談会を開催する予定でございます。日時としましては、8月3日（土曜日）の午後2時から2時間ほど、場所はここ、市役所7階、701会議室です。対象者は東久留米市民の方たちで、定員は30～40名程ほどを予定しておりまして、概ねそのくらいの方数の出席者がおります。内容としましては、会長より、「今、目指すべき地域福祉とは」といった内容でご講演いた

だいたあと、参加者による、地域でのつながりづくりについてのミニワークショップを行う予定でございます。もしご都合がよろしければ、委員の皆様にもご参加いただければと思っております。強制ではございませんので、無理はなさらずをお願いします。ミニワークショップを行う時には、委員の皆様にもご参加いただけますと、議論が進みやすくなるかと考えていますので、お時間等空きがあるようでしたら、ご参加いただけると市役所としては助かります。8月3日も審議会の扱いとさせていただきますので、報酬も出させていただきます。以上でございます。

会長：

ありがとうございました。ワークショップは居場所とつながりということを皆さんで話し合ってもらおうということですので、市民の皆さん、あるいは活動者の皆さんですので、突っ込んだ話がされるのではないかと思います。ご都合がつけばぜひご協力いただければということで、よろしく願いいたします。

この件につきまして、よろしいでしょうか。

4 閉会

会長：

それでは、お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございました。以上で全ての議事を終了といたします。ご協力ありがとうございました。お疲れさまでした。

事務局：

どうもありがとうございました。